

基礎教育科目の科目概要(3) ー図書館、地域事情、海外事情、海外研修、社会体験ー

科目区分	科目名	科目概要
図書館	生涯学習概論	人間の生涯にわたる「学習」の営みが「生涯学習」である。欧米における生涯学習の理念の成立の過程、その日本への導入の過程を理解した上で、主に日本における生涯学習に関わる施策・制度を理解する。さらに、そこで指す「学習」の多義性や展開をふまえ、生涯学習社会を実現していくための現実的課題を理解し、図書館の果たす役割について考える。
	図書館概論	図書館の機能や社会的意義・役割についての理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館の各役割・機能・利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格(司書)、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。図書館に関する基本知識を修得するとともに、他の司書資格科目学習のための基礎を培う。
	図書館制度・経営論	図書館経営・サービスの基盤となる法的根拠と政策について理解する。また、公共図書館経営に関する諸要素(人、施設・設備、財源等)の概要と現状を知り、経営計画作・評価作業に携わるための基礎知識を修得する。図書館に関する法律、関連領域の法律、図書館政策について解説する。公共図書館経営について、その考え方、職員・施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等を学修する。
	図書館情報技術論	図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得する。コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について解説を行う。最終的に、図書館が情報技術をどのように活用できるかを、自分の頭で考えられるようになることを目的とする。
地域事情	山形の歴史・文化	この授業では、「山形」を主として山形市域としてとらえて、大学が位置する山形市および南山形地区の歴史と文化を学習の対象エリアとし、地域学習の意味合いをもたせることに重点をおく。学習にあたっては、原始・古代から始まって山形の歩みとくらしの変遷を編年的に学んでいくことを主とするが、山形として特色ある歴史と文化をトピックス的に取り上げて地域性を浮き彫りにする。むしろ、「そのとき日本はどうであったか」という列島史との関わり合いも踏まえながら、「地域(山形)から日本の歴史・文化が見える」という観点をもって考察する。なお、本科目で取り上げる文化とは「民俗文化」が主なものとなる。
	山形の政治と行政	少子・高齢化と人口減少による地域社会の縮小が著しい山形県において、山形県庁や山形県内市町村が行なっている地域創生の特徴的な取り組みを学修することにより、学生に地域創生への関心を喚起し、地域社会が抱える課題を発見・解決するために必要な実践的知識と能力を養う。このために、地域創生の成功例と失敗例について具体的な事例をとりあげて解説し、これを通じて、地方自治の仕組みや政府の「地方創生」政策の展開を学ぶとともに、行政と企業、NPO、市民等の協働をどのように組み立てていけばよいのかを考え、実践する力を身につける。
	山形の産業と経済	この授業では、山形県の地域産業(農林水産業、製造業、サービス業など)と地域資源(歴史、特産品、生活文化など)について学び、地域産業・地域資源を活用して地域を活性化する方法を理解し、自ら実践できるようになることを目標にする。授業はまず山形県内の地域産業の特性と具体的な事例について学び、次にさまざまな地域資源の分類やその発見方法および地域における具体的な活用事例(視察を含む)を理解する。最後に、地域資源・地域産業を地域の活性化に活かすための政策について学ぶ。
	山形のことばとくらし	山形で使われていることばにどのようなものがあり、どのように発生し、変化してきているのかを学ぶため、山形で昔から使われてきたことば(方言)の特徴を概観した上で、山形の各地域におけることばの違いを分析する。さらに、方言の歴史的な成立や、使用されることばの変遷についても取り上げ、ことばの成立や変遷にかかわる人々のくらしの様子や変化をも視野に入れ、ことばとくらしの関係についても学びを深める。
	山形の信仰と伝承	山形に今も伝わる出羽三山に代表される山岳信仰などの民間信仰がどのような地域性を歴史的に育んできたのか。また、信仰に伴って数多くの伝承が伝説や昔話などとして伝えられているが、それらは山形の人々のくらしにどのように関わりながら伝承されてきたのか。今の山形をこうした信仰と伝承の観点からとらえかえす視点を学ぶ。
海外事情	アメリカ事情	現代の日本が置かれている状況を正確にとらえ、世界情勢を適切に理解するため、国家としてのアメリカの現在を、歴史的・社会的視点から把握するための基礎知識を修得する。具体的には、日本との関係を含めた世界的な情勢を視野に入れつつ、アメリカ国家の歴史的特徴や社会体制の特色を理解し、グローバルな視点からアメリカが抱える国家レベルの課題や社会問題を理解する。
	ヨーロッパ事情	現代の日本が置かれている状況を正確にとらえ、世界情勢を適切に理解するため、総体としてのヨーロッパの現在を、歴史的・社会的視点から多角的に把握するための基礎知識を修得する。具体的には、日本との関係を含めた世界的な情勢を視野に入れつつ、欧州連合としての歴史的特徴や国際関係上の問題点を理解し、グローバルな視点からヨーロッパ全体を把握する。
	中国事情	古来より密接な交流を重ねてきた中国と日本との間には、極めて類似した文化や習慣がある一方で、双方が辿った歴史の中で醸成された独自の文化や問題も存在する。中国に根付く前近代社会から継承されてきた文化や、今日の国家としての中国が抱える諸問題について学び、他者でもあり隣人でもある中国についての理解を深めつつ、それとの比較検討により現代の日本や国際社会の様相についても考える。

	韓国事情	現代の日本が置かれている状況を正確にとらえ、世界情勢を適切に理解するため、国家としての韓国の現在を、歴史的・社会的視点から、多角的に把握するための基礎知識を修得する。具体的には、日本との関係を含めたアジア情勢を視野に入れつつ、韓国の歴史的特徴や社会体制の特色を理解し、グローバルな視点から韓国が抱える国家レベルの課題や社会問題を理解する。
海外研修	海外語学研修A（英語）	各研修先において2～3週間のプログラムに参加し、他国の学生と共に英語を学びつつ、各種アクティビティにより現地の文化や社会についても体験的に学ぶ。研修先は、英ロンドンの語学学校（前期、8月中旬～9月初旬）、米カリフォルニア州シトラスカレッジ（後期、3月中）、米ハワイ州オアフ島リーワードコミュニティカレッジ（前期、8月中旬～9月初旬）、オーストラリアのケアンズの語学学校（後期、2月末～3月中旬）の全4か所。渡航にあたり、渡航手続き説明を含め、事前に入念なガイダンスを行い、帰国後には学修成果をまとめて発表する機会を設ける。
	海外語学研修B（韓国語）	ソウル女子大学にて3週間の韓国語の語学研修（前期、8月中）に参加し、現地での語学学習活動および課外活動を通して、生きた韓国語を学ぶ。また、現地でのエクスカーショにより、その国の文化や歴史に直接触れ、異文化理解を深める。渡航にあたっては、渡航手続き説明を含め、事前に入念なガイダンスを行い、帰国後には学修成果をまとめて発表する機会を設ける。
	海外語学研修C（中国語）	国立台湾師範大学での3週間の台湾語学研修（前期、8月中）に参加し、現地での語学学習活動および課外活動を通して、生きた中国語を学ぶ。また、現地でのエクスカーショにより、その国の文化や歴史に直接触れ、異文化理解を深める。渡航にあたっては、渡航手続き説明を含め、事前に入念なガイダンスを行い、帰国後には学修成果をまとめて発表する機会を設ける。
社会体験	ボランティア論	自己と社会との関わりを考える社会体験としてのボランティア活動について、その概念・歴史を理解し、今日における役割と課題について理解する。また、ボランティア活動の活動領域、活動形態の多様性を理解し、ボランティア活動を実践する素地を養う。具体的には、次のことを学び、修得する。①ボランティア活動の概念・歴史、②ボランティア活動の活動領域、活動形態、社会的意義、③福祉教育とボランティア活動、④ボランティアマネジメント
	ボランティア活動実践	社会体験としてのボランティア活動の実践に必要な心構えを理解し、地域社会の中での社会活動や福祉・医療現場における介護支援等、教育現場における学習支援、障がい児支援等の活動に、地域社会や社会福祉協議会、その他の各種団体の要請に基づき、ボランティア活動を展開する。そのボランティア活動の実体験を通して、自己を取り巻く世界や環境を知る。具体的には、次のことを学び、修得する。①ボランティア活動のルールや心構え、②ボランティア活動の実体験。
	企業研究	自己と社会との関わりを考える社会体験としてのインターンシップに向けて、「企業」とは何か？「企業」活動の実態、各種業界の動向等の理解とそこで働くためのマナーやルール、さらに自己の人生設計（キャリアデザイン）の重要性を学ぶ。戦後から高度成長期を経て大きく変貌しつつある「企業」とどう向き合っていくことが必要なのか、自己の在り方を考える視野を学んでいく。
	インターンシップ	社会体験の実践として一般企業をはじめとする各種の事業所においてインターンシップを実施する。実際の職場に身を置いて、仕事を体験することで働くということを通して、自分は社会とどうつながっていくべきなのか、自己の課題を見出すことで自己と社会との関わりを考えていく。事前のガイダンスのなかでインターンシップに臨む自己の課題を設定し、職場体験後の振り返りで課題の再確認や新たな課題の発見を得ることを目標とする。